



ドイツ・オーストリア旅行⑤ ～ノイシュバンシュタイン城～

オーストリアとの国境に近い町**フュッセン**に行きました。この町の一番の目的は、**ノイシュバンシュタイン城**です。

このお城は、**バイエルン国王ルートヴィヒ2世**が、**1869年（日本では明治の初め）**から造らせたお城です。ルートヴィヒ2世は、中世の強い権力をもつ騎士道をめざし、豪華なお城をいくつも造ります。フランスのルイ14世にあこがれ、ベルサイユ宮殿のようなお城を造ろうと考え、それを形にしたのがノイシュバンシュタイン城です。



マリエン橋から望むノイシュバンシュタイン城

Neu(ノイ)は「新しい」、「Schwan(シュヴァン)」は「白鳥」、「Stein(シュタイン)」は「石」という意味です。「新しい白鳥のように白い石」で造ったお城ということになります。このお城の外壁の白色は、天然の石の色で、塗っているわけではありません。

1866年、**普墺戦争（プロイセンとオーストリアの戦争）**で、ルートヴィヒ2世は参戦に反対しますが、結局オーストリア側に立って参戦します。戦争には負けて、その後はプロイセンに従うようになります。**自分が描いていた絶対的な権力をもつ国王になる夢が破れ**、それ以降、政治への関心が薄れます。結婚はしていないので自分だけの世界にのめり込み、誰とも合わず昼夜逆転の生活になり、一人で読書などをして過ごしました。このような生活なので**政治的な統治能力がない**とみなされ、1886年ミュンヘン郊外の**ベルク城に軟禁**されてしまいます。実際にノイシュバンシュタイン城で暮らしたのは、軟禁される前の数か月しかありませんでした。軟禁された翌日、ルートヴィヒ2世は、**シュタンベルク湖畔を散歩中に謎の死**を遂げます。40歳でした。ワーグナーに心酔し強い権力にあこがれ、夢破れて自分の世界に没頭し謎の最期を遂げる。そんなルートヴィヒ2世の人生に、私は惹かれます。

ドイツで気付いたこと

ドイツでは、**大都市でも車が少なく**と感じました。その代り、**トラム（路面電車）**や**自転車**を利用している人がたくさんいます。歩道と並行して、**自転車専用道**があり、うっかり自転車専用道を歩いているとベルを鳴らされて注意されます。それから、右の写真のように自転車でツーリングしている人もたくさん見かけました。各観光地へのサイクリングロードがとても充実しています。ドイツは、東日本大震災の原発事故を受けて、いち早く**原発廃止**を決定した国です。環境に優しく、健康にもいいなあと思いました。ただ、街中でもたばこを吸う人がたくさんいて、ポイ捨ても多く見られ、ちょっと残念でした。

